

---

# 一分小説～怠惰を抽出した小説。隙間時間にご賞味下さい～

ハヤテサM@ー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一分小説〜怠惰を抽出した小説。隙間時間にご賞味下さい〜

### 【Nコード】

N7273I

### 【作者名】

ハヤテSAM@-

### 【あらすじ】

一分いっぶん

それは、針時計の一番細い針が一周するのにかかる時間に等しい。

それは、音が18000メートル進むのにかかる時間とだいたい等しい。

それは、肥満な中年親父が筋トレを始めてやめる時間と多分等しい。

それは、徒歩で日本からアメリカに行く時間と全然等しくない。

それと、同じくらいの時間で読める小説です。なんでもやりますー

分で。

## 一分で説明(せつめい)

「どうも、こんにちは。オレはこの小説の主人公の一分太郎と申します。」

本当に何も無い空間に、一人の高校生くらいの少年が立ち尽くしていた。

彼の名は一分太郎<sup>いっぴんたろう</sup>。

本人も言うようにこの短編小説の主人公の男だ。

「さて、時間もあまりないので会話文とかマジ文字数使っんで、もうさっさとこの小説の解説をしていきます。」

少年は読者を急かすようなことを言う。

まあ、それも仕方のないことだ。なにせこの小説、

一分で読み終えるシステムになっているからだ。

では、なぜか？

答えは簡単で著者が二つ目の小説を書こうとしたのだが、長い面倒だからめちゃくちゃ短い書こう！そうしよう！となったからだ。

「この小説は500文字」一分読了をモットーとして空白・改行を除いた約500文字でどんなことが出来るかを実験する意味分らない小説です。やった一文で言えたよ！」

なんて、読者を労わらない無責任な主人公なんだろうか？

句読点の一切ない文に、読み終えてから息切れする読者もいただろうに。私から謝ります。すみません。

「さて、50文字きつたぞお！微妙に時間余ったな、何か言って早めに終わらすか。あああああ……」

なんてやる気のない主人公だろうか？

何も無い空間で少年はただひたすらに叫んでいた

一分で説明(せつめい)(後書き)

とにかく、言いたいことはたくさんありますがとりあえずすいませ  
ん、テラカオスです。フフフ…

短編なのに短編小説の部類にあるのはこれが無謀にも連載ものだけ  
らです。

文字制限がある以上、情景描写が簡素なものになってしまっていま  
すが、そこは皆さんのインスピレーションで何とかしてください！  
！！

とまあ、無責任な設定になっていますが楽しくいこうかと思えます。

一分で恋愛(れんあい)

「君が好きだ！」

「お前ダレ？」

「…、チキシヨー！恋なんてっ！」

一人の少年が屋上でこの世の不条理を叫んだ。

Why?

―それは彼がフられたからだ。

冒頭からバイパスなしにいきなり告白し、その後僅か十五文字で断られるどころか「あんた誰？」と言われた彼はいっぶんたろう一分太郎という。

「くそう、麻耶マヤちゃん。何でオレを知らなかったんだ？放課後、電信柱に隠れながらも一緒に帰った日々は何処へ？」

…それは、ストーカーだ。

仕方ないので帰ろうと校庭に出た太郎。するとけたたましいサイレンとともに放送が鳴った。

「家庭科室から火事です！避難してください」

見上げると炎が舞い上がっていた。脱兎の如く逃げ出す生徒達。叫

びが聞こえた。

「麻耶がいません！」

「（まじかよ…）」

消防が来るのはまだらしい。先生もさすがの火の手に躊躇ためらっている。

「（ええい、ままよ！）」

「あ、コラ君！」

「麻耶ちゃん、助けに来た」

先生の停止を無視し火事場のもとの家庭科室に來るとそこに麻耶はいた。怪我してるようだ。

「なんで、貴方が？」驚きを隠せない彼女

「何でかって？」

好かれてもいない女の子のために何で命を張ったか？  
そんなの簡単だ。

「お前が好きだからだ。どういわれ様とも、これだけは変わらねえ」

それだけ言っと、太郎は彼女をおぶって校庭に出た。  
麻耶は太郎に囁く。

「一分だけのヒーローじゃなくて貰方とずっといたい。」

炎はまだ燃え続ける…

一分で恋愛(れんあい)(後書き)

まず、ひどくてすみません。

手短に恋愛と言えどもうこれしかありませんでした。  
つり橋効果さんスイマセン!!!

あと、もう一つ謝らなければならないのが、今回500文字をかなりオーバーしました。

だから、急いで読まないと一分にならないかもしれませぬ。  
そしてもう一つ思ったことがあります。

∴これ、あとがき読んでたら一分じゃなくね??

では、また

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7273i/>

---

一分小説～怠惰を抽出した小説。隙間時間にご賞味下さい～

2010年10月14日03時51分発行